
欲望のままに

ふにう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
欲望のままに

【Nコード】
N3951Z

【作者名】
ふにう

【あらすじ】
ここはごく一般的なVR・MMOの世界
私利私欲を求めて、現実からかけ離れた世界へ、新たな料理、暴力を求めた兄弟が旅立っていった

10 当日

ここはごく一般的なVR・MMOの世界
VR・MMOとは、筐体に入ってネットゲームをすることだ
PCとの違いはリアル差が一番目立つところだろう

..... 当日

「兄者よ、私もやるぞ」

妹のリンはそう行つて、財布の中から銀行カードを抜き取り、その日のうちニVR筐体を一台買ってきたのだ

もちろん暗証番号は教えていないはずなのだが・・・

「兄者の頭では、生年月日を覚えるのが精一杯だろ」

まさにそのとおりである、言い返せないのが悔しい・・・

いい忘れてたが、俺の名前はカズキだ

まあどうでもいいんだが・・・

「んで、もうすぐ始まるが、職業はなんにするんだ？」

このゲームは職業という枠がない、基本的になんでもできるのである
なぜ職業を聞いたかというと、装備で大体の職業っぽいことができるのだ

剣と盾なら前衛で壁ができる、杖を装備すれば魔法が使える、弓を
持てば後衛支援ができる、回復職もやろうと思えば杖さえ持てば誰
でもできるのだ

職業固定はされていないが、武器は使い続けることにより武器スキルが上がっていくのだ
しかもこの武器Lv上限が無いらしい・・・
つまりイロイロ試すより1つの武器を鍛えたほうが、他より強く慣れるのだ

ちなみになぜそうなるかというと、Lvというものが無いからだ
Lvという概念がないため、ステータスは武器・防具・称号・スキルLvで強さ決まる

例えば、【弓30 片手剣30】のプレイヤーが居るとしよう
同じ時間剣だけを上げた場合【剣50】になるのだ

近づけさえすれば、【片手剣30】では【片手剣50】にはかなわない
プレイヤースキル
PSにも左右されるが、基本的には勝てない、罅迫り合いになったら簡単に押し切られるだろう
しかし、【弓30】を生かせれば、正気はあるのがこのゲームの面白いところだ

「戦士がいいな、暴れたいし・・・、兄者は？」

この一族は本能に忠実だ

「料理人だな、魔物が食いたい」

このVR・MMOでは味覚まで再現されている・・・らしい（公式参照）

このことが分かったその日に俺はVR筐体を買に行き、〇が始まる前から予習を欠かさなかった

「流石兄者、料理の腕にきたいします」

リンは言い終わるとVR筐体入っていった

「さて、楽しみだな・・・」

すでにヨダレで服が濡れているのだが、着替えているじかんはない

【始まりの街、アルトア】

エルリア大陸の真ん中にある国で、プレイヤーの初期地点だ
ここから冒険が始まるのだが・・・

「（なんとという喧騒、さすが始まりの街だな）」

「PT募集ちゅう、後衛火力のかた@2」

「PTあいてませんか、壁しぼうです」

「ここで叫ぶなよ、ログが貯まるだろks」

「ツングレクター、（。）ノ」

「PTはいりまゝす」

「ぱんていハアハア」

「寝るコマンドここで使うんじゃないー！#」

すごい速度で左下にある会話ログが流れていく

実際に会話したことがそのままログに残るのである

これにより、GMコールで犯罪を未然に防ぐとか何とか

「（さて、出発するか）」

クエストを受けるでもなく、妹のリンとPTを組むでもなく、まっ
すぐ町の外に出た

ウチの家系は、本能に忠実・・・もといわがままなのである
自分の意見は押し通してこそ、人生とか親父も言っていた

つまるところ家族全員ソロリストだ、よく家庭崩壊しないものだと
思うぞ

「さて、まずはドイツから料理してくれようか・・・」

装備は片手剣、予習（公式参照）によると包丁を使う前提のスキル

が、【片手剣10】だ

つまり、【片手剣10】似到達しないと料理が作れないのである
包丁を使わない料理ならできるが、あまりにもレシピが偏る

「まずは【片手剣10】だな、」
職業固定はされていないが、武器は使い続けることにより武器スキルが上がっていくのだ

手近にいたウサギのような敵を切り裂いた
倒したあと、モンスターは霧のようになって消えていった
アイテムは自動的にイベントりに収められるようになってる

「肉だ・・・ジュルリ」
イベントりに肉があった
10匹くらい倒したので、多少は素材も集まっている

柔らかいの毛×5
うさぎの肉×1
うさぎのしっぽ（アバター）

10数匹倒したときに機械音になった

《ポーン、【バシップスキル：片手剣】を取得しました》

《【スキル：スラッシュ】を覚えました》

バシップスキルとは、習得していれば、常時効果が発動するスキルである

基本的にはバシップを上げればスキルを覚えるのだが、バシップを複数上げること覚えるスキルもあるらしい

《バシップスキルは5個までしか付けられません》

《取消の場合は、始まりの街スキルセンターまでお越しください》

ああ、5個までだったな・・・

つまり、【片手剣】で1枠埋まってしまうのは確実

あとは料理で必要なスキルを探さないとな・・・

名前 カズキ

武器 スチールソード（片手剣：耐久度99/100）

頭 なし

鎧 旅人の服（初期装備）

腕 なし

腰 旅人のズボン（初期装備）

足 旅人の靴（初期装備）

アバター なし

バシップスキル 【片手剣Lv1】

アバターには、かなり色々付けれるらしいのだが・・・

うさぎのしっぽは流石にないわー

いや、女の子がつけるならむしろ”あり”なのだが、俺がつけるのは流石に、な

1 0 当日（後書き）

「意見、感想くれると嬉しいです

ウサギ狩りも人が多くなってきたので、街に帰ることにした

【成果】

片手剣Lv1 10

柔らかい毛x15

うさぎの肉x3

獣の皮x2

スチールx2

うさぎのしっぽ（アバター）x1

ようやく包丁を持って、料理が作れると意気込んだのはいいもの
・・・

「そついやあ、包丁ってどこで入手するんだ・・・？」

料理職のwikiには作り方しか書いてなかったしなあ

町を彷徨さまよっていると、大通りは露店街ろてんがになっていた

かなりいっぱい露店が並んでいるのだが、買う人も大量だ
聞いてみるしか無いな・・・、武器売ってる人はどこかねえ

「すいませーん」

「はいはい、初心者用武器いろいろ揃ってるよ」

グラマーなお姉さんだなー

「包丁って、無いですかね？」

「包丁か、まだ作ったこと無いんだよね（ノ、）

なんなら作るうか（*、）？」

このVR・MMOは武器ドロップが無い、基本的に武器防具は鍛冶屋（鍛冶バシップスキルを持つている人）が作るしかないそうだが、初期武器だけは店売りがあるのだが、初期武器を買うくらいなら、おなじくらいの経費で作れる武器を鍛冶屋露店で買ったほうが性能がいいらしい

作るための鉱石はモンスターか、鉱脈で採取できる

雑魚は低確率でボスは高確率で鉱石を落とす

鉱脈は100%何かしら1つ出るようだが、鍛冶屋にしか掘れない

「お願いできますか？」

包丁がないのでは仕方ないしな

「お代が1kくらいかかるけどええか？」

初めに1000b配布されているので問題ない

「はいよー、30分くらいしたらまた来てやー」

お金の単位は

1G^{ギガ} = 10000M^{メガ} = 10000,000k^{キロ} = 10000,000,000b^{バイト}

たまに日本人は、〜万円計算する人がいるのだが、かなりめんどくさいと思うんだ

今ではこの単位が基本になっているのだが、初心者はたまに〜万円とか使おうと計算が狂ったりする

お姉さんの話によりと、初期バシップスキルを売っているNPCがいるらしいので、包丁が出来上がるまでに行って見ることにした

「どう見ても自動販売機だよー・・・」

1台の自販機に人がかなり群がっている
バシップスキル5個しか装備できないので、順番が回ってくるのは
そんなに遅くはなかった

「【片手剣Lv1】も売ってたんだな・・・」

初期装備で何匹か狩るとそのスキルを覚えることができるが、買っ
てもいいらしい

このNPCは【片手剣】【両手剣】【盾】【弓】【ステップ】【片
手剣10 包丁1】【鍛冶】【錬金】・・・ets

などが売っていた、無料らしい・・・
買ってから狩り行けばよかったorz

とりあえず何も付けないよりは5個バシップを埋めておくことにし
よう

【包丁Lv1】【調理Lv1】【ダッシュLv1】【盾Lv1】
【ステップLv1】

とりあえず適当に埋めた

不要なものが出るかもしれないが、無料だしな！

2 (後書き)

長い文苦手なので、短めをポツポツ更新していきます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3951z/>

欲望のままに

2011年12月14日00時45分発行